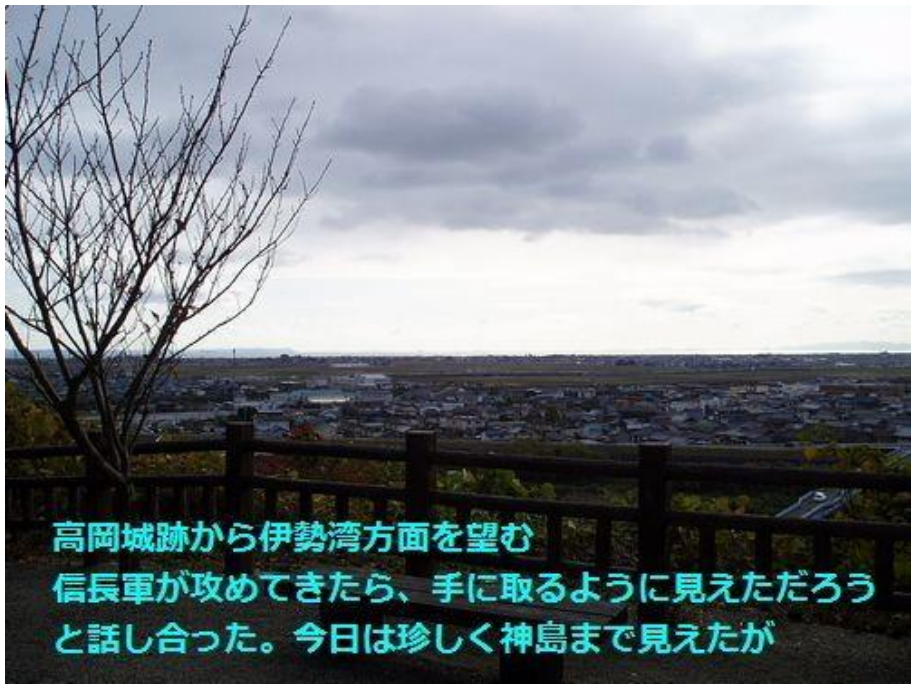
信長探訪倶楽部 11 月行事　北伊勢攻め、高岡城～神戸城へ
信長は美濃の稲葉山城を攻略、名を岐阜城と改めると「天下布武」の印を用い、京を目指す意志を明らかにした。京に上るには北伊勢を抑えておく必要から、北伊勢攻めを本格化した。まず、滝川一益に桑名地方を攻めさせ、次いで信長自身が大軍を率いて北伊勢地方を席捲した。

このおりまず楠城が落城、続いて高岡城が包囲されたが、神戸城を本拠とした神戸具盛の家臣山路弾正が守り抜いた。しかし、信長の大軍に抗しきれず降伏にいたった。信長の三男信孝が具盛の養子として入り、神戸氏を乗っ取ることとなった。（神戸城跡の写真は、後日掲載します。）

北伊勢攻めのおり、亀山の関氏系の采女城も攻められており、城主後藤藤勝の娘千奈美姫が落城時、井戸に身を投げたと伝えられている。采女城跡は標高７０ｍに築かれており、東西２００ｍ、南北２５０ｍの巨大な山城跡です。一度ご覧になることをお薦めします。

次回、1 月行事は「上洛戦」と題して、六角承禎の城「箕作城～観音寺城」を訪ね、時間があれば近くの近江八幡を観光の予定です。日程は楠公民館入り口に貼り出しますので、参加希望の方はその日に顔を出してください。


高岡城跡から伊勢湾方面を望む
信長軍が攻めてきたら、手に取るように見えただろう
と話し合った。今日は珍しく神島まで見えたが

采女城跡も高岡城と同じくして信長軍に攻められ
落城しており、この折り城主の姫が井戸に身を投げ
亡くなったとう。看板の後ろの井戸がそれです。

采女城の落城と古井戸の伝承
高岡城のあと、神戸高校隣の神戸城跡を訪問
その足で采女城跡を訪ねた。采女城跡は土面しか
残っていないか、城づくりの状態が分かるのが特徴